



致死性的変異生成法による新しいエイズ治療の数理解

講師：原田 耕治 先生（豊橋技術科学大学 情報・知能工学系）

日時：2015年1月26日（月） 16:15～17:45

場所：4号館3階 大講義室

概要：

エイズに対して現在唯一の治療法である多剤併用療法（cART）は、ウイルス産生を強力に抑制することで薬剤耐性ウイルス株の出現を妨げるメリットがある一方、抗 HIV 薬に対し副作用や耐性を呈する難治療エイズ患者に対しては、適当ではありません。そのため、cART とは異なる発想にもとづいた新たな治療法の確立が望まれており、「致死性的変異生成法」によるエイズ治療法が注目を集めています。致死性的変異生成法とは、核酸アナログである「変異原」を利用し、外部からウイルスゲノムの補償能力を超えた過剰な変異を誘導することでウイルスから感染・複製能力を奪う手法です。現在、この方法によるエイズ治療効果を評価するため、米国 Koronis 社がプロドラッグを開発し、その治験が進められています。しかしながらこれまでのところ、プロドラッグによる治療効果は非常に限定的であり、その原因の解明が重要な課題となっています。私は致死性的変異生成法によるエイズ治療効果を数理モデルから理論的に分析することで、このような疑問に答えることを目指して研究しており、本セミナーではその内容についてお話しいたします。

世話人：渡邊 裕司（電話：052-872-5037, E-mail: yuji@nsc.nagoya-cu.ac.jp）